

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	いきいきリハビリ事業	会計	介護保険	事業No.	267	施策順No.	35-046
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	事業種別	政策・その他	予算科目	5-1-2-10-20		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	6	終了	保健課	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	75歳以上の高齢者						A十分達成した Bどちらかといえれば達成した Cどちらかといえればできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	75歳以上高齢者人口(介護保険認定者を除く)	10736	11057	10879	10993			
	対象をどう変えるか	心身機能の低下(老年症候群)を防ぎ、健康寿命の延伸を図る							
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	いきいきリハビリ参加者の中で、基本チェックリスト(生活機能評価)の点数が維持または改善した人の割合%	55.8	58.3	57	85	98.4	60	A
	対象をどう変えるか	22年度から、いきいきリハビリ参加者の中で生活の楽しみになっている対象者の中でいきいきリハビリ事業に参加している高齢者の割合 %	17.4	16.9	16.6	17	15	17	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		参加者の要望をとり入れた事業内容であり、生活の楽しみにとなっている高齢者の割合は多い。高齢者の生きがいづくりにもなり、生涯現役をめざした取り組みを進めている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	65歳以上の高齢者を対象に、閉じこもりによる心身の機能低下を防ぎ、認知症や筋力低下等により、要介護状態になることを予防する事業。 住み慣れた地域の集会所や公民館等で月1~4回実施。 各地区まちづくり委員会、ボランティア等の協力を得て、高齢者を支える地域づくりの一端を担う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 生活の楽しみとなる内容の充実を図り、閉じこもりを予防する。 2 運動指導を継続し日常生活動作の自立を維持する。	1 参加者数 2 教室開催数	1 実人員 1,678人 延べ人員18,525回 2 1,693 回
23年度実施計画	1 筋力低下を予防するために運動を行い、日常生活動作の自立を維持する。 2 認知症予防として、交流、歌唱、レクリエーション、工作等を実施する。 3 参加者間の交流を深め、社会的孤立感の解消と社会参加の機会とする。	1 参加者数 2 教室開催数	1 実人員 延べ人員 2 回

3 事業コスト

		(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	介護保険会計による地域支援事業のなかの介護予防事業 国25% 県12.5% 市12.5% 1号保険料20% 2号保険料30%
事業費	特定財源	国庫支出金	2,963	1,961	2,963	
	起債	県支出金	1,482	981	1,482	
		その他	3,556	2,353	3,556	
		一般財源	3,854	2,550	3,854	
	計 (A)		11,855	7,845	11,855	
			4,000			
			14,304			
トータルコスト A+B			22,149			

4 事業に対する市民や職会の意見

市民からは、もっと会場を増やしてほしいとの声があり。
参加者からは、外出の機会が増え気持ちが前向きになった、家族との話題が増えた 等の感想が聞かれる。
教室運営に関して、参加者から自主運営していくことは困難であるという意見がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	高齢者が安心して生き生き暮らせる。	施策の成果指標又はムツ指標	安心して暮らせている高齢者の割合 いきいき暮らせている高齢者の割合 %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	参加者はこの事業を大変な楽しみにしており、いきいき暮らす一助となっている。		
	後期に向けた課題	事業委託に向けた取り組み。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	参加者の要望を傾聴し、内容の充実につとめてきた。		
	後期に向けた課題	参加者の要望をとり入れるとともに、成果向上のための内容検討		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	経費削減のため、地域の役員および参加者による自主活動を推進してきた。		
	後期に向けた課題	参加者が高齢化しており、事業運営を自主的に行うことが困難になっている。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	工作実習費、調理実習等は参加者の自己負担をお願いしている。		
	後期に向けた課題	今後も同様に自己負担をお願いしていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①各地区まちづくり委員会健康福祉部員、民生委員、ボランティアにより事業運営の協力をしていただいている ②それぞれの役員の自主性を尊重し活動支援している。		
	後期に向けた課題	高齢者を支える地域づくりとして、多様な主体の参加をさらに促す。		
全体を通じて	4年間の振り返り	数年にわたって参加している方が多く、高齢者の期待の高い事業となっている。		
	後期に向けた課題	新規参加者の確保と今後の事業展望。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--